2017 年（平成 29 年）北海道山紀行

序章

・毎年「今年で最後にしよう」と云っている私の「北海道山紀行」です。
昨年の紀行文にも**「年齢がかさみ、体力・気力・金力が衰えてきたので今年で区切りをつけようと思っています。」**と云う文章が書かれています。
・昨年の北海道山紀行はちょうど 10 年目になり、内容も充実していたので、本当に「これで区切りをつける」という気持ちでいました。が　年が明けるとまた北海道が恋しくなります。
・年明けからいろいろ情報を集めていると、この 10 年間の活動で欠けていることが気になりだし「欠けた部分の補修をして最後を締めよう」という思いが湧いてきました。
ちょうど今年で喜寿を迎えますので、喜寿の一大事業として 3 つの目標を設定しました。

2017年　北海道山紀行・締めくくりの３大目標

① 幌尻岳に登る

・この10年間で70山近く登って来た北海道の山ですが、幌尻岳はまだ登っていません。
・10年前にはいつでも登れると思っていたのが、100名山ブームで登山者が集中したため、まず幌尻山荘が、その次には林道までもが有料の予約制になり、今や無数にある100名山ツアーがその予約を押さえてしまうという、個人では全く自由のきかない山になってしまいました。アンチ100名山の私としては、全く登る気が無くなりましたが、日高の最高峰を残しておくのは残念という思いもありました。
・小屋まで入山するのに林道を約20ｋｍも歩かねばならず、あまりにも大変なため、最近は殆ど使われなくなった「新冠ルート」が、上記「平取ルート」の不自由な状態を避けるため再び注目され出し、地元の新冠山岳会が力を入れて新冠幌尻山荘を整備するなど、新冠ルートが利用しやすくなった、との情報が得られました。新冠山岳会や地元の宿「ふかふか亭」などと連絡をとっていろいろ情報を集めてみると、無理をしなければ私でも入れそうだと思えるようになり、新冠ルートを挑戦してみることにしました。
・新冠幌尻山荘まで入るのに、入山、登山、下山、予備日と４日分の食料と生活道具を一人で背負って約20ｋｍの林道を6時間強かけて歩くのはかなり大変でした。入山で疲れて翌日の幌尻岳登山にはこたえました。天気予報を睨みながら晴天が数日間続く天候条件を選んで入山したので3日間晴天に恵まれ、なんとか幌尻岳に登ることが出来ました。
・登ったのが６月だったのでまだ平取ルートは開いておらず（開くのは７月から）、平取から入る登山者は誰もいないし、新冠ルートから入った登山者は私を含めて３人だけでした。
6月28日に幌尻岳に登ったのはわれわれ3人だけで、山頂には人影が無く静かな幌尻岳を十分楽しむことが出来ました。
〇新冠ルートはアプローチが長くて大変ですが、それだけに人が少なく、予約もいらず、コース中に渡渉するところが一ヶ所しかないという利点があります。

②シレトコスミレに会いに行く

・シレトコスミレは白色の花の中心部が黄色で、距が極端に短いという特徴があり、知床・硫黄山山頂周辺でしか見られない希少な固有種で大変珍しいスミレです。私も一度は見たいと思っていたのですが、硫黄山は羅臼山と尾根続きで、羅臼山から縦走しないと行けないので日帰りで行くのは無理です。ヒグマの巣窟である知床の山を一人で縦走などとてもできないので「絶対に見ることのできない幻のスミレ」と諦めていました。
・ところが最近林道が開放されウトロからカムイワッカの滝まで車で入ることが出来るようになり、カムイワッカの滝から硫黄山に日帰り登山が出来ることがわかりました。そこで今年の３大目標の一つを「硫黄山へシレトコスミレを見に行く」と決めました。花期は6月下旬から7月上旬ですが、その年の積雪量や気温の変動によって花の時期は特定できず、うまく花に出会うのは大変です。知床自然センターに連絡をとってシレトコスミレの開花状況を調べたり、オホーツク総合振興局に林道の通行許可を申請したりいろいろ準備が必要でした。なにしろヒグマの巣窟知床の山ですから「ヒグマにはとにかく出会わないように注意すること。鈴や笛など音を出すことは必須。出会ったら見えなくなるまでじっとしているように。自己責任で入山して下さい。」とありがたいアドバイスをいただきました。
＊幸いにも７月５日に硫黄山山頂近く、標高1350m付近の砂礫地で満開のシレトコスミレに出会うことが出来て、ヒグマに遭遇することもなく無事下山し、目的を一つ達成しました。

③恵庭岳の山頂までゆく。

・支笏湖の北に聳える恵庭岳（1319.7m）は、山頂に天を突くように突き出た美しい岩峰があり、ぜひ登ってみたくなる山の一つです。しかし溶岩ドームの崩落により登るのは危険な状態となっており、山頂付近は2001年8月以降立入禁止となっています。2003年には地震により実際に溶岩ドームが崩落し、登れるのは第2見晴台（8合目と9合目の間・標高1210m）までで、ここを仮山頂と定めここで引き返すことになっています。

・私は以前2009年6月に登っていますが、第2展望台の仮山頂から先は通行止めだったのでそこで引き返して来ました。山頂まで入ると山の裏側にあるオコタンペ湖を見ることが出来るのですが、残念ながら見られなかったので、いつか見てみたいとの思いがありました。

・最近インターネットで恵庭岳登山を見ていると、通行止めの規制はそのままですが、みなさん平気で山頂まで行っている様子です。それなら私も山頂まで行ってオコタンペ湖を見てみたいと、「恵庭岳の山頂に立つ」を今年の３大目標の一つにしました。

〇北海道の山では色々な規制も「自己責任」に任せられているケースがよくあり、結構自由に行動できるところが多いです。個人の権利が認められているようで、神奈川県では味わえない、自由な気持ちでの登山が出来ます。

6月22日に新潟港を出て小樽に上陸し、恵庭岳、幌尻岳、硫黄山の順に登って目的を全て達成し、7月８日に苫小牧港から帰宅の途につき7月9日に無事帰宅しました。

＊＊＊＊＊＊＊　以下にそれぞれの状況を写真を基に紹介します。＊＊＊＊＊＊＊

① <u>恵庭岳</u>（1319.7m）　　H29.6.23.（金）　　<u>晴</u>

・6月22日朝に新潟港をフェリーで出港し、23日の早朝4時半に小樽港に上陸した。

・小樽から札幌へ向かって走るとすぐに霧が立ち込め、札幌の街は霧の中の走行となった。こりゃ天気が悪いかな、といやな思いを抱きながら札幌市街を抜け国道453号線を南下し支笏湖へと向かった。支笏湖の北の峠を越えて下り始めると、なんと！霧が晴れて目の前には岩峰を青空に突き出して聳える美しい恵庭岳が聳えて見えた。

・7時15分に登山口駐車場に到着。

きれいに整備された広い駐車場が用意されていた。

私と同時に2台の車（札幌ナンバーと奈良ナンバー）が到着して、それぞれ男性がさっさと登って行った。私はゆっくり準備を整えて7時40分に登り始めた。

明るい樹林帯をしばらく登ってゆく。足元にはズダヤクシュやマイズルソウがチラホラ咲いているが意外に花が少ない。

・トドマツ林の長い九十九折りを登ると涸れ沢に出て、ここからはガレ場の急坂が続く。途中何度もロープにしがみついて登るなにしろひどい道だ。行けども行けども急坂のガレ場が続き、もう止めてくれ！と思った頃やっと７合目展望台に着いた。

展望台からは、眼下に広がる支笏湖が見える。
振り返って見上げれば青空に聳える岩峰恵庭岳の眺めがすばらしい。

・ここからはガレ場の急坂は無くなり歩きやすくなった。身体もなんとか調子が出て来て、30 分ほど登ると現在の仮山頂（第２展望台）に着いた。ここから先は通行禁止でロープが張ってあり、古くて端が欠けている「恵庭岳山頂（1319.7m）」の名板が掛っている。

現在の仮山頂（第２展望台）

・現在 10 時 40 分。さっさと山頂まで行ってこようと、ザックを岩陰に置いて空身で通行禁止ロープを跨いだ。（このロープも今にも朽ち果てるように古い）

・どんな危険な道なのかと不安を抱きながら歩いたが、道はしっかりとついていて、危険箇所にはロープが張ってあり、立派な登山道だ。目の前に岩峰の山頂が迫る。

道は岩峰の裏側に回り
いよいよ岩場の登りとなる。
眼下に幻の湖
オコタンペ湖が見えた。

最後の山頂への岩峰は高さ 20m余だが
岩がもろくて危険だった。
でも要所にはロープが張ってあった。

念願の山頂（1319.7m）に立った。狭い山頂に立派な祠が建っている。

・山頂まで往復したが、仮山頂（第２展望台）を出てから戻るまで約１時間だった。
第２展望台に戻ると数パーティーの登山者で混雑していた。
皆さんここで引き返すのかな、私だけ通行止めを無視した無謀登山をしたことになるのかな、と思いながら昼食を摂っていると、なんと皆さんあたりまえのように停止ロープを跨いで山頂へ向かって行くではないか。なんだ、今ではもう山頂まで行くのは当り前になっているのか。あらためて認識した。

・下りがまた大変。第２展望台から下には、上りとは別に下りコースが設定してあり、ロープにぶら下がりながらの懸垂下降に近い下りで疲労困憊。そのあとの道も石がごろごろで歩きにくい。トドマツ林に入ってやっと普通に歩けるようになった。午後２時前に無事下山した。

〇通行禁止を無視した無謀登山をしたような後ろめたさが若干残るが、みんな入山禁止を無視して山頂へ向かっている現状を見て、少しは救われる気になった。

長いロープにぶら下がりながら下る「下り道」

② **幌尻岳**（2052.4m）　新冠ルート　H29.6.27.（火）～H29.6.29.（木）　晴

〇 **第１日　入山**　（H29.6.27.）　晴

車で新冠から舗装道路 25ｋｍ　林道 40ｋｍ走って新冠湖北端のゲートまで。
ゲートから林道を徒歩で 19ｋｍ余、新冠幌尻山荘に入る。

・とにかく新冠ルートは大変です。山荘に入るのにまる一日かかります。
新冠の道の駅を 3 時 50 分に出発。舗装道路からダートの林道に入り走ること約 2 時間、6 時前に新冠湖北端のゲート・イドンナップ山荘の駐車場に到着した。ここから 4 日分の食料と生活道具、衣料などの入った重いザックを担いで林道を 19ｋｍ余、新冠幌尻山荘へ向った。荷物の重さは 30 kg位になるが、こんなに大きなのを背負って歩くのはワンゲル以来かな。現在 77 歳のご老体だぜ！でも歩いてみると結構歩けるものだね。「山荘まであと 2 km」の標識。疲れた体にこの最後の 2 kmが辛い登りだった。途中 2 回も休憩した。晴天だった上に気温が結構低かったので、13 時頃になんとか無事山荘に到着出来た。

・今日この山荘に入ったのは、札幌の男性と、大分から来た百名山狙いの男性と私の 3 人。
夜はかなり冷え込み、寒いので薪ストーブをガンガン焚きました。

車はここまで。イドンナップ山荘

こんなデカイ荷物、久しぶり

このゲートから長い道が始まる

45分ほど歩くと「山荘まで15km」の標識
「あと15kmか」と、目標が定まった

「行くか戻るか決断の橋」とされる「いこい橋」に到着
身体が通るのがやっとの小さい回転ドアをくぐるので、
荷物はゲートの下から押し込んで通る

5kmごとに現れる標識が唯一の楽しみ

あと5km

最後の標識「あと2km」ここからが
登りになり、最後のあがきだ。

奥新冠ダムが見えた！　あと少し

静かに迎えてくれた
「新冠幌尻山荘」
長かったぜ！

○ **第2日　幌尻岳**（H29.6.28.）　晴

いよいよ今日は幌尻岳に登る。昨日の入山でけっこう身体に疲労をおぼえる。
入山前に幌尻山岳会やふかふか亭で得た情報では、今年は残雪が多く、いつもなら出ている夏道がまだ雪渓の下にある。雪渓は急なので雪渓の上を歩くのは危険。すでに最近滑落事故が2件も発生しており大けがをしている、とのありがたくない情報を頭に入れ不安一杯で出発した。

・4時55分山荘を出発。同泊の2人はもう先に出ていて私が最後だ。
1時間ほど沢沿いの道を歩くと渡渉地点に到着。このコースは渡渉がここ1箇所しかないから渡渉を何回も繰り返さなければならない平取コースよりも、その点は楽。
幸い沢の水が少なかったので、靴を濡らす程度で渡渉出来た。

・ここからは笹の生い茂った急坂の尾根道をヤブコギ状態で登る。標高約 1300 の展望台、約 1400mの中間点を通り標高約 1600mで水場と呼ばれる雪渓に出る。雪渓が無ければここから夏道を登れるのだが、今年は雪渓が上の方までべったりとついている。
雪渓は急斜面のうえ、雪はすっかり腐っているのでアイゼンが殆ど約に立たない。雪渓の上に残るステップをたよりに恐る恐る雪渓を横切り対岸に渡った。あとは雪渓横の草付きの急坂を滑らないようにアイゼンを付けて必死に登坂。途中雪渓の真ん中に先日滑落した人が残した物か、ストックが不気味に引っ掛かっているのが見えた。くわばらくわばら。
・標高約 1700mのお花畑では足元にエゾノハクサンイチゲやショウジョウバカマなどのきれいな花が咲き、正面に聳えるイドンナップ岳の山容を眺めながら一服した。このあたりから雪渓も切れ始め、やっと雪渓から解放されて夏道が歩けるようになり楽になった。

そして　11 時半、快晴の幌尻岳山頂に立った。

・時間があれば七つ沼カールが見えるところまで足を伸ばそうかと思っていたが、とんでもない。雪渓攻略で登頂に時間がかかり遅くなったし、疲労困憊。山頂に 30 分いただけで来た道を下り、疲労でがたがたの体で 4 時前になんとか山荘に辿りついた。

出発から約 1 時間
このコース唯一の渡渉点

遠くに山頂が望まれる

標高約 1600mの水場
慎重に雪渓を横断して対岸へ

見上げるとどこまでも続く雪渓
急斜面なのでこの上は歩けない

底なしの急斜面の雪渓
雪は腐っていてアイゼンが効かない
滑ったらどこへゆくかわからない

標高約 1700mのお花畑
眺望を楽しんで一服

雪渓も切れて夏道に出た。
大岩をめざして登れば、もうじき尾根に出る

やっと尾根に出た。平取ルートと合流。
山頂はすぐそこだ

山頂を目指して絶景の尾根道を歩く

11 時 30 分　山頂に立った

滑落した人が残したと思われる
ストックが雪渓の上に見えた

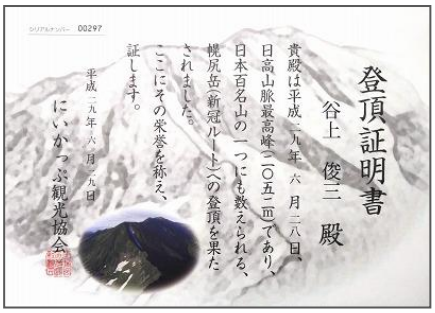
○ **第 3 日　下山**　(H29.6.29.)　晴

天気が良かったので予定通り 2 日目に幌尻岳に登ることが出来、今日は下山できる。
ただ体中が痛くて階段を下りるのもつらい。こんな体で 19 kmの林道を歩けるのかな。
でも歩けなければ帰れない。

昨日はだれも入山して来なかったので、
結局この 3 日間、同じメンバー3 人だけだった。
2 人は 5 時過ぎに相次いで下山してゆき、
一人静寂の新冠幌尻山荘に取り残された。
誰もいない静かな山荘。
なんとすばらしい時間だろうか。
ずっとこの山荘でこの自然の中に浸っていたいと思う。
後片付けをして 6 時過ぎに山荘を後にした。
名残惜しいすばらしい山荘だったな。

・天気も安定し、夏の太陽が照りつける厳しい暑さの中の下山となった。3日分の食料が無くなったとはいえ、まだ生活道具や衣類はそのままだし、荷物の大きさと重さは入山時とそんなに変わっていない。昨日酷使した体の痛みをだましだまし、重い荷物と暑い汗を我慢しながら歩くこと6時間、駐車場のあるイドンナップ山荘に無事辿り着いた。

・3日間の苦しい格闘だった。入山、下山の長いアプローチと急斜面の大雪渓に阻まれ苦労して登った幌尻岳だった。でも天候に恵まれ、振り返ってみれば充実した楽しい時間だった。
・新冠町に戻って、観光協会から立派な「登頂証明書」と記念バッジをいただいた。



③　知床・硫黄山（1562.5m）　　H29.7.5.（水）　　曇のち晴

・今回の北海道山紀行の最大目標は、硫黄山でしか見られないシレトコスミレを見ることだ。スミレの開花時期に会わせて今年の日程を6月下旬から7月上旬に設定してきた。そのため幌尻岳に登るにはちょっと時期が早かったと思われ、大量に残った雪渓に苦労することとなった。　逆にここ硫黄山では雪解けが早く、雪渓も小さくなり、シレトコスミレも開花が早いとの情報にいささか焦りを感じた。広い北海道なので条件の見極めが難しい。
・天気予報では「7月3日から天気が回復し7月5日からは安定する」と云っている。
7月3日は私の誕生日で、ちょうど喜寿を迎える。このところ私の誕生日はだいたい北海道で一人で迎えている。今年は羅臼のホテルに泊まり一人で喜寿を祝うことにしている。翌日の4日はたぶん二日酔いで山へは登れないだろう。5日に硫黄山へ登ることに決めた。
・ウトロで自然センターへ行って羅臼岳・硫黄山の地図を購入して、スタッフに登山コースの詳細な説明を受けた。ヒグマについては「とにかく出会わないように注意」と云われた。
　　道の駅・ウトロシリエトクで車中泊し明日に備えた。
・5日朝4時過ぎ道の駅・ウトロシリエトクを後にしてカムイワッカの滝へ車を走らせる。ゲートは全て開いていて検問も無く5時前にカムイワッカの滝に到着した。男性2人組が登る用意をしていた。今日登るのはこの3人かな。5時10分に駐車場（駐車スペース）を出て登山口まで10分。今にもヒグマの出そうな林の中の登山道へと入った。天気は良くない、どんよりと曇っている。1時間ほど登ると林を抜け旧硫黄採掘地に出て視界が開ける、といっても周りは霧が立ち込めて何も見えない。ここからは噴火口の岩場の斜面を約1時間、ハイマツのトンネルを約1時間登って、硫黄沢出会いに到着した。標高約900m。本来ならここから硫黄沢の雪渓の上を歩いて登るのだが、今年は雪解けが早くて雪渓に到着するまで20分くらい涸れ沢を登った。
・8時45分、標高980m、いよいよ長い硫黄沢の雪渓が始まる。途中2回も休憩をとって雪渓の上を登ること1時間余、標高1300m近くでやっと雪渓が切れ、砂礫の夏道が現れた。途中霧がかかって視界が悪い時もあったが、だんだんと霧も晴れ、薄日が差すようになってきた。砂礫の夏道を登っていると、上から7,8人のパーティーが下って来た。「縦走して来たのですか？」先頭の白髭のリーダーが「ああ、そうだよ」「すごいですね！ところでスミレはありましたか？」「山頂の向こう側では少し見たが、山頂からこっちでは全然見てないな」と絶望的な答えが返って来た。やあ、せっかく来たのにダメか。と思った時、パーティーの中

の女性が「ここに咲いているじゃないの！」
・足元を見ると、なんと！精一杯開いた花をつけたシレトコスミレがあるではないか。
・周りを探すと 6, 7 株はあるだろうか。みんな花をいっぱいに開いて私を迎えてくれた。
なんという幸運だろうか。
・ちょうど霧も晴れて太陽も顔を出して来た。私は我を忘れて約 1 時間シレトコスミレの撮影に専念した。見上げると青空をバックに硫黄山の山頂がすぐ上に見える。1 時間も登れば山頂へ難なく行けそうだ。でも今回の硫黄山はシレトコスミレに会いに来たので山頂を征服するのが目的ではない。老体で無理してはいけない。満開のシレトコスミレに会えたことの幸運に感謝し、山頂に一礼してそこから下山した。標高 1350m付近だった。
・長い雪渓を下りハイマツのトンネルを抜け、噴火口の岩場を下り登山口に 14 時頃到着した。雪渓の下りは早いが、足への負担が大きく足がガタガタ、疲れきって駐車場へたどり着いた。ヒグマに会うことも無く、無事念願を果たすことが出来た。

カムイワッカの滝駐車スペース

硫黄山登山口
いまにもヒグマが出そうだ

旧硫黄採掘地跡
視界が開けたが周りは霧の中

噴火口の岩場
この岩場を約 1 時間登る

ハイマツのトンネルの入り口
ここからハイマツの中を約 1 時間
硫黄沢出会いへと登る

硫黄沢にはエゾコザクラが咲く

長い硫黄沢の雪渓をひたすら登ってゆく

雪渓が切れて砂礫の夏道が現れた

足元にシレトコスミレを見つけた

今年の最大目的
シレトコスミレ

山頂はすぐ上に見えるが、ここで引き返した

下り道で振り返ると
天候はすっかり回復し、硫黄山が遠望できた

14 時過ぎ、カムイワッカの滝に無事下山